

大阪府立図書館 大阪市立図書館

越谷市の特定非営利活動法人(NPO法人)越谷らるどが運営するフリースクール「りん

この木」かこのほとりの木

せんげん台駅東口のビル2階（越谷市千間台東1の2の1）に移転した。これまでの同駅西口の住居兼学習塾の2階が手狭になつたため広いスペースを探していた。新しいスクールは駅前にあり「今後もさらに活動の幅を広げていきたい」と越谷らるるごではいう。東部地区唯一のフリースクールであり、新たな発展が期待できそうだ。

フリースクール 越谷「りんごの木」

比
背
、
の
び
の
び
学
羽

場所「せんげん台」駅東口

行政支援が課題に

新しいフリースクールは床面積約200平方㍍の広さを持つ。子供たちが勉強するための「学習室」をはじめ、「講座&読書室」、

越谷らるごが発足して15年、法人化してフリースクールを開校して5年になり、現在20人が同フリースクールに通う。らるごの理由は「高校を通つて」でした

と話していた。スクールには
に通わない小学
生ぐらいまでの
へる。運営スケ

通っている。また、「親の会」や「ハイキング」など子供から若者、親たちがそれぞれ参加できる内容を作り出す

ースクールは貴重な存在だ。ただ行政の支援はなく、越谷らるごもすべて自分でやつているのが現状。「通



新しくオープンしたフリースクールで勉強する子供たち

たペースで勉強を進めていく。学習タイムは、小中高の復習、受験勉強、レポート作成、高校卒業程度認定試験に合わせた学習サポートを行い、スタッフが支援している。地域の人たちと一緒に学ぶ「映画制作」も毎週土曜日に実施していく、さまざまな人がかかわっているのが特徴だ。日曜日は火曜日を休日にし、それ以外は毎日、子供たちが通ってくる。

いってきた。
増田理事長は「さまであるな事情を抱えて、学校に通かなくなつた子供たちが多くさん訪れています。フルスクールに通うことでの子供たちが生き生きとした様子に変わつていくのが分かり、充実した日々を送っています。いろいろな学び方や育ち方がある」と理解しててくれる人を増やしたいきたい。それが子供・若者の歩みのエネルギーになる」と話している。

常の学校に通う子は税金で援助され、フリースクールは完全に自前というのではなくので。今後は行政に運営費の補助などを要望

「していく」（増田理事長）

たべーすで勉強を進め
る。

増田理事長は「やめやめ